



特定非営利活動(NPO) 法人 松本ヒマラヤ友好会

MATSUMOTO HIMALAYA FRIENDSHIP CLUB (略称MHC)



代表者：理事長 鈴木 雅則 事務局担当者：降旗 久恵
 住所：〒390-0852 松本市大字島立 4539 番地 7
 TEL: 0263-47-6197 FAX: 0263-47-5685
 E-mail: mhc@lily.ocn.ne.jp http://www1.ocn.ne.jp/~mhfc/
 設立:2000年4月 (当初、任意団体としての設立1990年4月)
 会員数:85名 (松本本部73名 カトマンズ支部12名, 2009年度)
 財政規模:2007年度2170万円 2008年度1560万円



1998,2004,2006,2008 市民参加により世界文化遺産を訪ね「ネパール文化紀行」を実施。



2002 ネパール大使館主催「私の心の故郷ネパールと白銀のヒマラヤ」展の副実行委員長として参画。

主な活動分野：① 文化、芸術、山岳スポーツの振興を図る活動
 ② 国際協力の活動

活動の目的：この法人はネパール並びにヒマラヤ地域の人々に対して国際協力及び交流に関する事業を行い、松本市民をはじめとする長野県内外の人々とネパール並びにヒマラヤ地域の人々との友好を深め、相互の理解と発展に寄与することを目的とする。

活動の内容 ① **ネパール地域の文化・伝統的芸術の紹介、ネパール地域の写真展、ネパール地域の工芸物産展示販売の各事業。**

- 日本の一流山岳写真家内田良平氏の監修にて長野県内外からの市民参加によるネパール写真展(1991、1993、1994、1999、2001、)を松本駅前デパート、等で開催。松本市長賞、カトマンズ市長賞等をもうけ、盛上げました。
- 1993年カトマンズ市の協力製作による世界文化遺産や古都カトマンズをビデオ等にて地元テレビ番組で紹介。
- また1991年～1995年まで市民参加による5回のヒマラヤ・トレッキングを5年連続で地元テレビ番組で紹介。ラジオにても解説してネパール・カトマンズの理解を広く求めました。
- 1998年春、市民参加による世界文化遺産を訪ねるネパール文化紀行を実施。



1995年第1回市民参加ネパール写真展を開催 1999年第2回市民参加ネパール写真展を開催。大勢の来場者で賑わいました。松本市長賞、カトマンズ市長賞等を授与しました。

- 1999年6月には、カトマンズ市役所の協力により、日本初100年前のガラス版ネガによるカトマンズの写真展25点、現代カトマンズ写真家の世界文化遺産の航空写真展、同時に市民参加ネパール写真展も開催。話題となりました。
- 2001年9月には、松本近郊のデパートで、カトマンズ市長の紹介によるネパールの一流画家スリージャン・R・バンダリによる絵画展、同時に市民参加ネパール写真展を開催。開催事には、カトマンズ市から行政官・部長ら家族と共に7人来松。友情を深めました。
- 2002年6月には、駐日ネパール王国特命全権大使ケダール・バクタ・マテマ氏ご夫妻を招待してMウィング300人ホールでネパール・ヒマラヤ映画会、及び県内ネパール関係者による意見交流会を開催。また、上高地の山岳関係者と懇談会をもうけ、山岳交流について話し合いました。
- 2002年10月には、ネパール大使館主催の一般公募第一回ネパール写真展(東京新宿にて開催)に、理事長は運営に携わり、副実行委員長、審査員として応援。日本全国から160名、作品約600点が寄せられ、ネパール大使賞等が選ばれました。



カトマンズにて100年前のガラス版ネガを確認。1999年ネパール大使館も応援して、松本の井上デパートで100年前のカトマンズの写真展25点を日本初公開。広く評判になりました。2001年絵画展も開催しました。2008.2.1、「岳都カトマンズ&エベレスト撮影紀行」写真展にてカトマンズ訪問団13名とカトマンズ市長賞授与式が行われました。

- 2003年末～,04年初、2006年末～,07年初、2009初、市民参加による世界文化遺産を訪ねるネパール文化紀行を実施。
- 2004年11月、松本駅前の中央公民館Mウィングで、市民参加の「ネパール文化紀行」報告写真、並びに姉妹提携15周年記念登山アイランドピーク登頂報告写真、市民のカトマンズ写真他を展示発表しました。
- 2006年2月～3月、「2005MHC登山講習報告写真展」「エベレスト展望トレッキングとカトマンズ訪問報告写真展」を開催。写真120点と映像で紹介、大勢の来場者がありました。
- 2006年9月、中央公民館Mウィングで、カトマンズ市役所の協力を得て、「カトマンズの世界文化遺産と伝統的な街づくり」と題し、世界文化遺産の維持保全、周辺整備、新しい街づくり、観光との関わりについて、鈴木理事長が報告講演を行う。カトマンズへの深い理解に役立った。
- 2008年1月末～2月初、松本市市制100周年事業として、「岳都カトマンズ&エベレスト撮影紀行」写真展を松本駅前井上デパートで開催。カトマンズ市長賞、松本市長賞、松本商工会議所会頭賞、各マスコミ賞をもうけ、広く関心がもたれました。
- 2009年7月3日ネパール大使館主催の在県ネパール人と松本市民のサッカー試合交流会、7月4日ホテルブエナビスタで議会との懇談会、中央公民館Mウィングでの松カ姉妹提携20周年記念祝賀会開催を共催して支援。MHCの20年間の交流・国際協力活動に対し、駐日ネパール政府特命全権大使ガネッシュ・ヨンザン・タマン大使より感謝状が授与される。7月4日上高地にて山岳関係者とのネパール交流の懇談会を開催。
- 他講演会、公民館、ホテル会場などで、ネパール・カトマンズを紹介する、イベント、写真展、ミニ映画会を行っています。

② 市民参加による北アルプス等での登山講習、ネパール地域においては、ヒマラヤトレッキング等、山岳を通じたスポーツ交流事業。

- ・ 姉妹提携以来、1990年から2009年までの間、市民参加により、北アルプス登山等で体力調整しながら、カトマンズを訪問し、カトマンズ市の協力を得てネパールの文化に触れながら、ヒマラヤトレッキングを計19回実施。その範囲は、クーンブヒマール、ランタン、アンナプルナ、ダウラギリヒマール方面に及び、2009年始めまで述べ290余名が参加。現在まで全くの無事故、全員感激の内に終了してきている。



姉妹提携5周年カラパタール登頂トレッキング 姉妹提携10周年記念ゴークョピークトレッキング 松本市市制施行100周年記念事業ゴークョピーク5360mに20名登頂

- ・ 1993～1994年には、姉妹提携5周年記念エベレストトレッキングに40名が参加。カラパタールピーク5545mに参加者17名が登頂。
- ・ 1998年～1999年には、姉妹提携10周年記念エベレストトレッキング、ゴークョピーク5360mに26名参加者全員が登頂。
- ・ 2000年春には、メラピーク6476mに16名が参加。参加者13名が見事登頂を果たし、カトマンズ市長からの登頂祝賀会に招待されました。
- ・ 2004年春には、姉妹提携15周年記念登山アイランドピーク6160mに8名が参加。参加者4名が登頂の成果をあげる。



本格的ヒマラヤ登山も実施。2002年メラピーク6476m、13名登頂。ケシャブ・スタピット、カトマンズ市長から祝賀会が催される。2004年姉妹提携15周年記念登山アイランドピーク6160m、4名登頂。カトマンズ市から合同エベレスト登山隊編成を相談される。

- ・ 2007年12月～2008年1月、松本市市制100周年事業として、「岳都カトマンズ&エベレスト撮影紀行」としてゴークョピーク5360m登頂トレッキングを実施。20名の登頂を果たし、1月報告写真展を開催し、カトマンズから13名の視察応援団が来松する。
- ・ 2000年から2009年の本年度も、毎年、NPO法人松本ヒマラヤ友好会の山岳スポーツ振興事業として、ヒマラヤの高所登山経験を生かして、市民登山を応援し、「安全登山と山岳遭難を未然に防ぐ」事や、青少年の育成も願い、北アルプス等で市民参加によるMHC登山講習を行っている。年々参加者も増え、2007年度は330名、2008年度は310名が参加。
- ・ 2009年度も、「安全と楽しい登山」を目標に、青少年や市民一般登山、山岳写真教室、ザイルワーク講習、初心者冬山講習等20登山講習を企画。好評を得て実施している。



③ 国際協力事業基金の設立によるネパール地域の勤勉学生及び医学生への奨学基金の運営及び学校建設とその運営、医療奉仕、農業指導等の事業への協力。

- ・ カトマンズのカレッジ(短期大学)へ通学する勤勉学生への奨学金を1996年より支給。ヒマラヤトレッキング等で誠実に対応するシェルパ族の青少年の教育促進に尽くすため、カトマンズ支部を通じ向学心旺盛なカトマンズのカレッジへ進学する学生へ支援する。
 - 1) カレッジ学生12名に月2000ルピー2年間。2009年5月現在13期生を迎える。(卒業生含め現在まで45名を支援)カトマンズ支部に奨学金事務局を設置。1ヵ月毎に学生の様子を確認し、奨学生に奨学金を支給している。
 - 2) 2005年度から医学生奨学基金を設立し、カトマンズの医学生を対象に、松本市の医療法人から寄せられた支援金により、現在1名に学資を支給、6年目を迎え、松本の信州大学へ2009年2月インターンシップ研修させる。2007年度から看護学生1名を支援、2年を迎える。
- ・ ソルクンプ、エベレスト街道沿いのクムジュン村クムジュン校(ヒラリースクール)の遠隔地通学高校生の為の新学生寮建設、水道引込み工事。
 - 1) 2001年～2002年冬期に資材を用意。建設敷地は、クムジュン村クムジュン校内に確保。2002年3月15日着工。新学生寮(60ft×21ft)、台所・食堂(34.5ft×21ft)シャワー室(19.5ft×9.0ft)、総面積約200㎡、水道引込み600mと貯水槽の建設が進められる。7月4日に完成引渡。総工事費は、約510万円であった。
 - 2) この費用は、外務省の草の根無償資金協力を得ることが出来、2001年10月12日、カトマンズの日本大使館において「クムジュンスクールの新学生寮建設の為のプロジェクト」と題し、鈴木理事長が日本大使館と契約を交わし、33,998ドル(約440万円)の援助を受けた。
 - 3) 2002年7月7日より学生15名と教職員2名が入寮、2009年度は18名が入寮。引き続き電気代、宿舍舎監費用等、一部運営費を負担。



2002年7月クムジュン校の新学生寮を3棟建設。

学生寮内部、中央はマヘンドラ校長水道引込み600mと貯水槽の建設も行う。

2009年1月、カトマンズの奨学生を激励する。